

# チャイナビジネス 深時代

## 変わる中国生産

日本のアパレル生産を支えている中国の縫製工場やニッター。その中国の生産工場が、変化の真っ只中にある。変革を促す最大の要因は、中国の経済成長に伴う生産コストの上昇だ。もはや「安く作

る」というのではない中国だが、それでも20年以上にわたってインフラ整備がなされた日本向け生産拠点としての存在感は大きい。上海などの沿岸部の生産工場は、日本の中高級商品やデザインに秀でた商品を作り出す新たな拠点、東南アジアなど他国で作る量産品などを管理するアパレル貿易の拠点として生まれ変わろうとしている。

## 上海は開発の拠点に



日欧米の中高級婦人服を生産している蘇州マッコニー

のコスト上昇を見据えてサンプル開発センターをどこに置こうか考え始めたのはCOSだ。白羽の矢が当たったのは、当社のサンプル生産の実績、それに中国沿岸部のアパレル生産の底力だと思ふ。COS向けのサンプル開発センターは、英語を話す日本人女性を責任者に、COSと企

シヨンの業界を志す優秀な若者が職場や起業を目指して集まる。付加価値品を作り出すロケーションでこれほどの理想的な立地はない」と訴える。COSが評価したのは、合理的なトータルコストと、ファッションを生み出す安定した力だ。蘇州マッコニーではH&Mの新プロジェクト「アナザー・ストーリー」で同様の試みが計画されているほか、欧州のアッパーゾーンブランドからの問い合わせも増えているという。

### 開発センター 立地で優位性

「江蘇省蘇州は、世界のサンプル開発センターとしてロケーションが非常に優れている」と語るのは日欧米の中高級婦人服生産のマッコニーホールディングスの會藝文社長。同グループの主力生産拠

点である蘇州マッコニーは、従業員1200人で、60人のサンプル生産ライン、本縫い21ラインを持つ。同社は、9月からH&Mのアッパーゾーン「COS」の全サンプルを開発する専用の開発センターが稼働した。

画立案のやり取りを行うマーチャンダイザー(MD)7人、パターンナー6人、テクニックや仕様を考える技術スタッフ2人を配置している。それに縫製ワーカー6人、マシン20台のサンプル縫製ラインで構成している。

点である蘇州マッコニーは、従業員1200人で、60人のサンプル生産ライン、本縫い21ラインを持つ。同社は、9月からH&Mのアッパーゾーン「COS」の全サンプルを開発する専用の開発センターが稼働した。

上海周辺の江蘇省、浙江省のエリアは、縫製工場従業員の月給が上がり、30000元以上は当たり前となっている。「単純に縫製コストの値上がりと考えずに、縫製技術、デザイン、ファッション動向に熟知した縫製技術者、縫製ワーカーが育ってきたと考えるべきだろう」と、會長は捉えている。

「欧州の大手ファッションメーカー・SPA(製造小売業)は、東欧などにサンプル開発センターを置き、本生産は全世界で行ってきた。東欧

さらにCOS向けの開発センターに「ファッションの専門教育と語学力を持った日本人を採用できた」ことを端的な例として、「上海など中国沿岸部にはアパレル・ファッ